



Urban Safari

[アーバン サファリ]

日之出出版

May.2024 Vol.40

Cover Story

クリス・ヘムズワース

Timeless Elegance.
記憶に残るタイムピース。



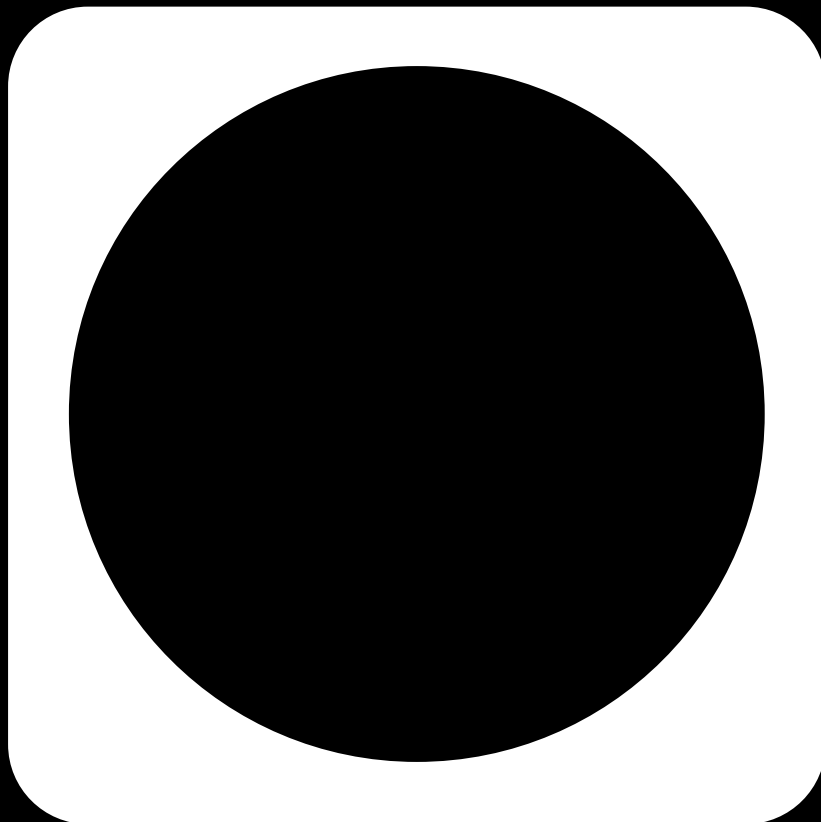
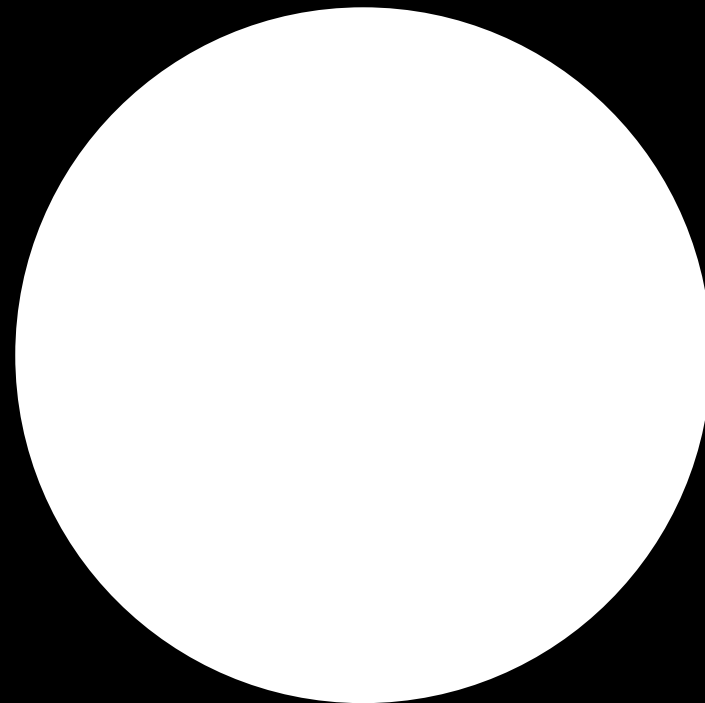
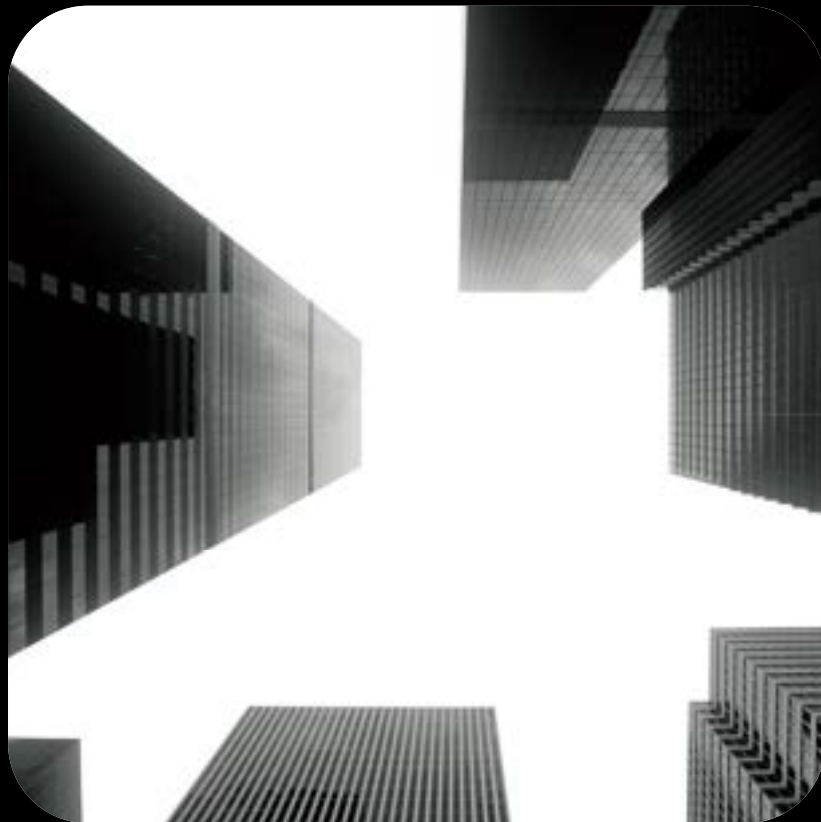
HARRY WINSTON

JEWELS THAT TELL TIME



0120 346 376

HARRYWINSTON.COM



**NEW BR 05 CERAMIC
FOR URBAN EXPLORERS**

Bell & Ross

POWER RESERVE 54H – TOKYO BOUTIQUE (81) 03 6264 3989 – OSAKA BOUTIQUE (81) 06 6786 8993 – FUKUOKA BOUTIQUE (81) 092 753 9993 – BELLROSS.COM



FREDERIQUE CONSTANT GENEVE

Live your passion



MANUFACTURE
Classic Power Reserve Big Date

BEYOND CONVENTIONS

frederiqueconstant.jp

フレデリック・コンスタント相談室
TEL.0570-03-1988 受付時間 9:30~17:30(祝日を除く月~金)

FC-735S3H6
¥847,000(税込)

Contents

08 COVER STORY クリス・ヘムズワース
11 in Your CLOSET
20 記憶に残る新作時計。
24 リーダーが選ぶ軽くて涼しいスーツ。
27 Gastronomic City Singapore
28 Urban GOLF STYLE
38 THE HOTEL WITH A LIVING HISTORY
39 ACTIVE WELLNESS

Niels Eggerding

ニールス・エガーディン／フレデリック・コンスタントCEO

写真＝仲山宏樹 文＝遠藤 匠

photo : Hiroki Nakayama (IL NIDO, STUDIO) text : Takumi Endo

突き詰めたいのは、高品質な時計をフェアプライスで提供すること。

200年以上の歴史を持つ老舗も珍しくないスイスの時計業界において、新鋭の旗手として存在感を増している〈フレデリック・コンスタント〉。創業36年めにして、目の肥えた時計愛好家にも認められる魅力は、はたしてどこにあるのか。CEOのニールス・エガーディンに聞いた。「私たちの魅力は、3つあります。ひとつは革新的、そしてもうひとつはユニークであること。これは若い会社だからこそ重要です。そのうえで大切なのが、質の高い製品をフェアなプライスで提供すること。私たちは2004年に初のマニュファクチュールムーブメント、2008年に初のトゥールビヨンを発表し、自社でムーブメントを製造するメーカーとしての質を高め続けています。近年、時計市場の価格は上昇傾向ですが、当社は自分たちのプライスレンジに留まり続けています。

高品質なトゥールビヨンを1万5000スイスフラン(約250万円)で提供できるメーカーは、私たち以外いないと思います」2018年にマネージングディレクター就任後、自社工場を拡大。大ヒット作の“ハイレイフ”を手掛け、グループ全体のシェアを伸ばすなど、経営手腕を発揮してきた。その情熱はどこから生まれるのか。「人と一緒に働くことが好きで、家族はもちろんですが、ともに時計作りと向き合う会社の部下や仕事仲間も大好き。ストレスがあっても、家族や仲間からエネルギーをもらうからそれを感じないんです。好きな人と好きな時計作りができるからこそ情熱を注げるし、長く続けることができているのではないのでしょうか」好きこそものの上手なれを体現するリーダーが作ることもまた、魅力的に映る時計が生まれる理由のひとつのようだ。

発行人
Publisher
藤原 晃
Akira Fujiwara
編集長
Editor in Chief
園部 仁
Hitoshi Sonobe
メディア事業部 統括
Executive Director of
Media Division
成井 毅
Tsuyoshi Narui

アートディレクター
Art Director
藤澤拓也
Takuya Fujisawa (ANAGUMA)
デザイナー
Designer
渋谷裕子
Yuko Shibue (ANAGUMA)

コントリビューティング・エディター＆ライター
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠
Takumi Endo
大嶋慧子
Keiko Oshima
岡村佳代
Kayo Okamura
古関千恵子
Chieko Koseki
柴田 充
Mitsuru Shibata
渋谷康人
Yasuhito Shibuya
中村孝則
Takanori Nakamura
長谷川茂雄
Shigeo Hasegawa
八木悠太
Yuta Yagi
渡邊ひかる
Hikaru Watanabe

●本誌掲載商品の価格表示はすべて税込み価格です。
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは日之出出版代表番号までお願いいたします。なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

株式会社日之出出版
〒104-8505 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス7F
代表 ☎03-5543-2221
広告 ☎03-5543-1131

〈フレデリック・コンスタント〉

1988年にジュネーブ郊外のトアネで創業し、適正な価格の高品質な腕時計作りをスタート。昨年末にブランド創業35周年を記念し、日本初のブティックを東京・銀座にオープンした。CEOのニールス・エガーディンは、1978年オランダ生まれ。アイントホーフェン大学で経営学を学びながら時計業界で働きはじめ、2012年にフレデリック・コンスタント・グループに入社。2023年より現職。



A full-page photograph of actors Chris Hemsworth and Elizabeth Olsen walking on a red carpet. Chris Hemsworth is on the left, wearing a white three-piece suit and black shoes. Elizabeth Olsen is on the right, wearing a long, shimmering gold dress and a gold crown. They are surrounded by photographers and cameras. The background is a lush green wall with white flowers.

CHRIS HEMSWORTH

【クリス・ヘムズワース】

写真=Getty Images 文=渡邊ひかる
photo by Getty Images text: Hikaru Watanabe

PROFILE

1983年、オーストラリア生まれ。母国オーストラリアのドラマ界で活躍した後、『スター・トレック』でハリウッド映画デビュー。2011年、『マイティ・ソー』の主人公ソー役に抜擢され、続編はもちろん、『アベンジャーズ』をはじめとする関連シリーズでも同役を演じた。そのほかの出演作に、『スノーホワイト』、『ラッシュ／ブライドと友情』、『ゴーストバスターズ』、『タイラー・レイク 命の奪還』、『スパイダーヘッド』など。今後の作品に、声優として参加した3DCGアニメーション映画『トランスフォーマー／ONE』などがある。

クリス・ヘムズワースといえば、大勢に愛されるマーベルヒーロー、雷神ソーの姿が瞬時に思い浮かぶ。ソーを主人公にした直近の映画『ソー：ラブ&サンダー』の公開からは約2年が経ってはいるものの、やはりクリス・ヘムズワースに似合うのは人々を思いやり、正義のために立ち上がる頼もしい姿。タイプは違えども、いまやもうひとつの代表作となりつつある『タイラー・レイク』シリーズのクールで屈強な傭兵しかり、『メン・イン・ブラック：インターナショナル』で地球を守っていたエージェントしかり。これまでの彼は、大抵、悪と戦う側で活躍を見せていた。それは素顔の印象にも直結していて、プライベートではよき父にしてよき夫。今年1月には一家で日本を訪れ、渋谷や銀座、信州の野沢温泉などで家族サービスに励んでいたのもSNSを通じて知られている。ところが、そんな彼が『マッドマックス：フュリオサ』では終末世界を牛耳る厄介な極悪人と化している。ヒーロー人生から一転、どんな心境で作品の世界に飛び込んだのか。

「ロンドンで映画の撮影をしていたとき、映画館で『マッドマックス：フュリオサ』の前作に当たる『マッドマックス 怒りのデス・ロード』を観たんだ。映画を観て、その映画が完成するまでのプロセスを考えなかったのは俳優になってはじめてだったと思う。俳優である以上、あの場面をどう撮ったのか、この俳優はなにを考えていたのか……なんてことを考えてしまうものだけど、そのときは一観客として、ひたすら作品に没頭してしまった。そして、エージェントに電話し、『この監督と仕事をしたい』といったんだ。ディメンタス役を打診されたのは、それから数年後だけだね」

『マッドマックス：フュリオサ』の監督を務めたのも、前作に続きジョージ・ミラー。つまりヘムズワースにとっては念願叶ってのタッグということになるし、荒野が広がる『マッドマックス』の世界と彼のタフな雰囲気も相性がよさそう。とはいえ、まさか悪役での参加とは。演じるディメンタス將軍は権力争いの一角を担う暴君であり、主人公フュリオサの前に立ちちはだかることになる。

「過去に悪役を演じたことも何度かあるけど、ディメンタスほどインパクトがあり、映画にとって重要な悪役を演じたことはない。だからこそ、演じるのがすごく嬉しかった。ディメンタスは複雑な

性格で、暴力と過酷な現実、荒れ果てた地の産物ともいえる。彼自身の経験が彼を動かし、形成してきたんだ。その経験の中には、計り知れない悲劇と恐怖、苦痛と喪失があったのだろうね。彼が生きる世界はすべてが絶望的。1日1日がサバイバルで、すべての人間が彼を殺し得るんだ。そんな中、ディメンタスはとても暴力的になり、民衆に恐怖を植えつける存在になったのだと思う」

『マッドマックス：フュリオサ』の中に、格好いいヒーローはいない。そこにいるのは荒っぽく、不愉快で、滑稽でもある独裁者だ。それでいて、瞳の奥には哀しみが宿っているようにも。さらに、クリス・ヘムズワースの大きな魅力のひとつ、よく響く低音の渋い声も今回は封印されている。

「ディメンタスのことを理解するには結構な時間がかかった。セリフを読むたびにソーやほかの役を思い出し、『ただ俺が話しているみたいだ』と思ってしまっただけ。そんなある日、競馬の実況をするアナウンサーの鼻にかかった声が耳に残り、僕の祖父も似たような声をしていたのを思い出した。そこから昔のオーストラリア映画を観たり、インタビュー映像を見たりもして。いろいろなものを少しずつ参考にし、ディメンタスにふさわしい声のピッチを見つけていったんだ。不安定でやる気

がなく、耳が遠いかのように誰よりもうるさくわめく彼の声をね。まるでカモメのように不愉快で、攻撃的な声だよ。（『マイティ・ソー』の監督である）ケネス・ブラナーと一緒に作り上げた、静かで落ち着いた声のあるソーの声とは違うんだ」

また、「午前3時にホテルに迎えが来て、そこから4時間かかった」というヘアメイクの効果もあり、もしかしたらディメンタスを目にしても、クリス・ヘムズワースだとわからない観客もいるかもしれない。『マッドマックス：フュリオサ』は彼にとって、俳優としての幅を見せつける作品にもなった。ちなみに、劇中のディメンタスは赤く見えるマントを羽織っているのだが、赤いマントといえば誰もが連想してしまうのはソー。だが、本人は「じゃあ、今度はスーパーマンをやろうかな。赤いマントが好きなんだ」と余裕の表情だ。

「実は僕もちょっと心配で、ジョージ（・ミラー監督）にもいったんだ。『似たものにならないかな？』とね。そしたら、彼は『ああ、ちょっと似ているかもしれないね。たぶん、それはいいことかもしれない。どうかな』なんていって僕の質問をかわし、僕たちは赤いマントでやり続けた。でも、赤いマントになったのにはクールな理由がある。映画を観れば、完全に納得がいくと思うよ」



『マッドマックス：フュリオサ』

石油も水も尽きかけ、文明が崩壊した世界。凶悪なディメンタス將軍（ヘムズワース）に母親を目の前で殺された少女フュリオサは、やがて怒れる戦士へと成長。ディメンタスともう1人の権力者、イモータン・ジョーの覇権争いに翻弄されながらも、ディメンタスへの復讐を心に誓う。世界中で大ヒットした『マッドマックス 怒りのデス・ロード』の登場人物、フュリオサを主人公にした前日譚。●5月31日より、全国ロードショー

配給：ワーナー・ブラザーズ映画 ©2024 Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved.

ジョージ（・ミラー）はこのシリーズを45年間も作ってきた人間だから、その知識と経験は膨大なものだ。それなのに人の意見に耳を傾けてくれる。彼の隣に座って、自分の意見を提案し、聞いてもらえるのは光栄なことだよ。

クリス・ヘムズワース



CARRERA

CHASING DREAMS SINCE 1963



In Your CLOSET*

メンズジュエリーが誘う新たなダンディズム。

この季節、シンプルになるファッションに代わり、アクセサリーが気になる。身につけることで気持ちが高揚し、充足感を得る。〈ブルガリ〉はそんな魅力を教えてくれる。そろそろ男たちもそのダンディズムを楽しむべきだ。

写真＝野口貴司 スタyling＝中川原 寛 ヘア & メイク＝中嶋竜司 文＝柴田 充 構成＝大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (CaNN) hair&make-up : Ryoji Nakashima (HAPP'S)
text : Mitsuru Shibata composition : Keiko Oshima

BVLGARI / ブルガリ

JEWELRY

ブルガリの“ビー・ゼロワン”

創業140周年を迎え、〈ブルガリ〉の存在がさらに際立つ。真骨頂となるのがこの“ビー・ゼロワン”。1999年に、生誕の地ローマのコロッセオに着想を得て、建築的なアプローチをシンプルなデザインに落とし込んだ。ブランドのイニシャル“B”と、はじまりを表す“01”を組み合わせたネーミングにも過去と未来を繋ぐ意思が込められている。PGにブラックセラミックをあしらい、よりボールドな印象に。アクセサリー初心者でも手にしやすいスタイルだ。

リング30万9100円、ブレスレット102万3000円(以上ブルガリ／ブルガリ ジャパン)、スーツ56万1000円、シャツ7万9200円、ネクタイ参考商品(以上ジョルジオ アルマーニ／ジョルジオ アルマーニ ジャパン)



MONTBLANC

100 Years of Meisterstück.
Written and directed by Wes Anderson.

In Your CLOSET*

旅の醍醐味を演出するスーツケースの新定義。

日常に旅が戻り、改めて実感するのがスーツケースの大切さ。収納や携行の機能性はもちろん、スマートなデザインは旅をスタイリッシュに演出する。ツールとしてだけでなく、その存在自体が旅を象徴する。

SUITCASE

ルイ・ヴィトンのモノグラム・エクリプス
“スーツケース ホライゾン55・70”

インテリア、コンセプトカー、ペン、スマートウォッチなど常に時代をリードする作品を手掛けてきたインダストリアル・デザイナーのマーク・ニューソンが〈ルイ・ヴィトン〉とコラボレーションした。キャリーハンドルを外側に移すことで内装をフラットにするとともに、携行時の操作性や安定性も向上する。全方向移動が可能なキャスターや軽量化への徹底した見直しなどシックなマットブラックの“モノグラム・エクリプス”に機能美が宿る。

スーツケース小49万2800円、スーツケース大58万3000円、バッグ37万700円、ジャケット56万1000円、シャツ17万500円、ネクタイ参考商品、パンツ20万5700円、リング参考商品、サングラス参考商品、シューズ23万4300円、時計61万6000円(以上ルイ・ヴィトン/ルイ・ヴィトンクライアントサービス)、その他はスタイリスト私物

In Your CLOSET*

大人の週末にふさわしい“テニス カプセル コレクション”。

スポーツ本来の目的は勝敗や記録を追うだけではなく、日常から心身を解放し、リラックスすることにある。
〈ブルネロ クチネリ〉はそんな楽しさを提案。コートでの機能性に加え、クラブハウスで過ごす時間も上質に彩る。



CAP
テニスプリント
キャップ



TENNIS SET

ブルネロ クチネリの
“テニス カプセル
コレクション”

KNIT
テニスバッジ付き
ニット



TOWEL
テニスロゴタオル



BAG
テニスバックパック

D
タオル地で知られるコットンテリークロスに、ややメランジ感のあるコットンのトリミングを組み合わせ、上品なバイカラーで仕上げています。シンプルなスタイルながらラケットのシルエットで縁取ったロゴを特殊な刺繍で描き、スポーティな個性を上品に主張する。天然素材の柔らかな手触りは普段使いにも。

タオル各9万2400円(以上ブルネロ クチネリ／ブルネロ クチネリ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

C
プレイ中の髪の乱れにわずらわされることなく、陽射しも遮るキャップはスポーティなコーデには欠かせないアイテム。軽量ハイテク素材を採用するとともに、随所に小さな穴を設けて通気性を確保する。前方のロゴもコントラストを抑えた清涼感ある色使いで、シンプルデザインに洗練された気品を醸し出す。

キャップ8万2500円(ブルネロ クチネリ／ブルネロ クチネリ ジャパン)、ニット、カットソーはAと同じ

B
ラケットのほか、ウエアやシューズなど意外にかさばる荷物をスマートに収めることが可能なバックパック。サイドや前面など複数のジッパー付きコンパートメントでそれぞれ整理して収納でき、大きな把手で手持ちでも使える。グレインドカーフスキンとナイロンを組み合わせ、高級感と軽量性にも優れる。

バッグ52万3600円(ブルネロ クチネリ／ブルネロ クチネリ ジャパン)、ニット、ショーツはAと同じ、キャップはCと同じ

A
コットンのケーブルニットで仕上げた半袖シャツは、ガーゼ技法のざっくりとした見た目にも軽やかさと快適さを併せ持つ。襟や袖はグレーのストライプで縁取りし、クラシックテイストを漂わせる。胸元のテニスバッジもさりげない大人のお洒落を演出し、スポーティなカジュアルウエアとしても最適。

ニット21万1200円、カットソー9万200円、ショーツ16万2800円(以上ブルネロ クチネリ／ブルネロ クチネリ ジャパン)、キャップはCと同じ、バッグはBと同じ、その他はスタイリスト私物

In Your CLOSET*

軽やかな気分はエスプリ漂うフットワークから。

カラフルなスニーカーにも惹かれるけれど、やはり大人にはひねりを効かせた遊び心が似合う。おすすめするのが〈エルメス〉。軽快なモカシンにお洒落な遊び心を添え、これからの季節、是非素足に履きたい。

SHOES

エルメスのモカシン “ギヨーム”&“ケネディ”

モカシンは、オーセンティックなスタイルにアクティブな履き心地を併せ持つ。〈エルメス〉の“ギヨーム”は、美しいカラーがアクセントのアップーに一体型EVAソールを組み合わせ、モダンに仕上げた。夏を感じさせるパステルカラーにはアイコニックな“H”のループを手縫いし、エスプリを注ぐ。“ケネディ”(写真左)は、パリの第1号店があるフォーブル・サントノーレ通りの住所を示す24 FBGのモチーフを左右にあしらう。

ジャケット61万3800円、パンツ14万800円、シャツ参考商品、右のシューズ“ギヨーム”15万8400円、バッグ90万5300円、左のシューズ“ケネディ”19万300円(以上エルメス/エルメスジャパン)





室内のシートはしなやかで耐久性のあるセミアニリンレザー製。ヘッドライトは5つのクリスタルを使用したLED製。ドアを開けると乗降時にのみ自動的にサイドステップが展開されるなどラグジュアリーな世界観を実現



右:シートは2列目をキャプテンタイプにしているのが美点。VIP用としても機能する。そのシートをスライドさせ足元を広くして座ってもいいし、3列めに座って前列をオットマンにしても快適 中:品よくデザインされたインパネまわりも高級感に満ちあふれている。ウッドパネルとデジタルモニターをこれほどうまくマッチングさせたインパネは見たことがない。まさに大人だ 左:エスカレードには高級車にふさわしい装備が多数付いている。オーディオは、AKG Studio Referenceスピーカーサウンドシステムが搭載される。36個の埋め込みスピーカーでキャビンに360度サラウンドで取り囲む。クラス最高峰のスピーカーであるのはいわずもがなである

CADILLAC

都会的にアップグレードした〈キャデラック〉の世界。

エスカレードの快適な居住空間を体験する。

クルマヒエラルキーに頓着せず、自由な存在であるキャデラックは、今なお独自の進化を遂げている。いい意味でアメリカ車らしくない、モダンさと先進性を兼ね備えている。とりわけエスカレードはその象徴ともいえる。走りも居住性もラグジュアリーを叶えた一台。

写真＝正重智生 文＝九島事務所 構成＝堀川博之
photo: Tomoo Syoju(BOIL) text: Kushima Office composition: Hiroyuki Horikawa



ESCALADE

- 全長×全幅×全高:5400×2065×1930mm
- ホイールベース:3060mm
- エンジン:V型8気筒 OHV/L87
- 車両重量:2740kg
- 最高出力:306kW(416PS)/5800rpm
- 最大トルク:624N・m(63.6kg・m)/4000rpm
- 駆動方式:セレクトダブル四輪駆動
- 乗車定員:7～8名(※プレミアムは8人乗り)
- 価格:1640万円～(※写真はブラチナム1740万円)

進化を止めないアメリカの象徴、新しい100年を紡ぐキャデラック。

キャデラックのイメージは人それぞれ異なると思う。オールドスクールなアメリカをイメージする者もいれば、アメリカ大統領をはじめとする要人の専用車を思い浮かべる者もいるだろう。100年を超える歴史あるブランドだけに、そういった様々な使われ方をしてきたのは確かだ。ニュース画像もそうだし、映画などでもそんな場面をよく観る。また、アメリカの音楽シーンに詳しい人ならメジャーなラッパーを思い浮かべるに違いない。彼らの中には成功者の証としてエスカレードに乗る風習がありそうだ。

とはいえ、その足跡を紐解くとこのブランドは常に挑戦の歴史といえる。スターターの開発やV8エンジンの量産化、シンクロメッシュ機構付きの開発など、「自動車はじめて物語」が多い。今日では当たり前前の技術を先駆者となって導入してきた。いってしまえば、エスカレードもそのひとつといえる。1999年にリリースされたこのクルマこそ、ラグジュアリーSUVの元祖に値するからだ。

そんなブランドだけに、電動化真っ盛りの今、しっかりその準備を進めている。エスカレードのビュアEV版エスカレー

ドIQをイメージリーダーに、リリック、オブティック、ビスティックを計画中。リリックはすでに本国で販売を開始しており、2025年には日本での販売を予定している。キャデラックのEVビジネスはグローバルで展開されることがすでにアナウンスされている。

そんな中、個人的に興味を持ったのはレース活動。ここ数年のニュースを読み込むと、これまで以上にそれを活発化させているのを感じる。

具体的には、昨年からスタートしたル・マン24時間レースへの参戦がある。ハイブリッドレーシングカー「キャデラックVシリーズ.R」を3台体制でエントリーしている。WECへのシリーズ参戦なので、年間でいろいろな耐久レースに出場するようだ。その意味では技術開発に一役買っているのは間違いない。モーターの開発が電動市販車にフィードバックされるのは明白だ。

さらにいえば、その後F1参戦計画を発表。アンドレッティ・グローバルという会社とレーシングチームの結成を決めた。そして昨年末にはそのチームにGM側がパワーユニットを供給することをリリー

スしている。キャデラックのさらなる挑戦だ。EV用パワーユニットと高効率のガソリンエンジンを同時に手掛けるのだからじつに興味深い。

といったように多面的に展開するキャデラックではあるが、ずっと変わらないイメージがある。それはアーバンテイス。牧歌的なカントリーサイドが大半を占めるアメリカにおいて、キャデラックはずっと都会的な雰囲気を持ち続けている。エスカレードひとつとってもそうで、そもそもレジャーユースを目的として生まれたSUVではあるが、山間や草原より高層ビル街がよく似合う。シボレーやGMCと同じGMグループの一員でありながら一時期デトロイトではなくマンハッタンにオフィスを構えていたのもそんな理由だからだろう。

キャデラックのラインナップは現在エスカレードのほかは下記ようになる。日本仕様は4つのSUVとひとつのセダンという構成だ。SUV大国アメリカの産物だけにそこにチカラが入るのは当然のこと。そのニーズに応えるようにバラエティに富んだモデルが並ぶ。特徴はその先進性で、どのモデルにもグローバル基

準の運転支援装備や安全装備が用意される。と同時に、シートを震えさせるなど彼ら独自のワーニングなど見るべきポイントは多い。自動車大国アメリカならではの手法をしっかりと取り入れている。

そしてすべてのモデルに備えているのはデザインがアーバンテイスであること。どれもマンハッタンに摩天楼が似合うのは想像しやすい。きっと日本でもそんなシーンに溶け込むだろう。丸の内、銀座、六本木にマッチしそうだ。

ということで、今キャデラックを選択するのをおすすめする。ヨーロッパ車のヒエラルキーに当てはまらない自由さがそこにあるからだ。特にエスカレードは唯我独尊の代表格。存在がオンリーワンである。広々としたキャビンに大柄のシートは常に快適で、パワフルな心臓はスポーティな走りを楽しめる。416PS/624N・mの6.2リッターV8エンジンは時に荒々しく時にジェントルだ。これぞまさに大海原を疾走するラグジュアリー大型クルーザー。頼もしさはハンパない。このクルマに乗り込めばほかにはない快適なカーライフが手に入れられること間違いなしだ。

セダンからSUVまで最強のラインアップが揃う。



XT4

- 全長×全幅×全高:4605×1875×1625mm
- ホイールベース:2775mm
- エンジン:水冷サイクル4気筒直列/LSY
- 車両重量:1760kg
- 最高出力:169kW(230PS)/5000rpm
- 最大トルク:350N・m(35.6kg・m)/1500～4000rpm
- 駆動方式:全輪駆動(選択式)
- 乗車定員:5名
- 価格:679万円～(※写真はスポーツ759万円)



XT5

- 全長×全幅×全高:4825×1915×1700mm
- ホイールベース:2860mm
- エンジン:V型6気筒DOHC/3L
- 車両重量:1990kg
- 最高出力:231kW(314PS)/6700rpm
- 最大トルク:368N・m(37.5kg・m)/5000rpm
- 駆動方式:全輪駆動(選択式)
- 乗車定員:5名
- 価格:795万円～(※写真はプレミアム)



XT6

- 全長×全幅×全高:5060×1960×1775mm
- ホイールベース:2860mm
- エンジン:V型6気筒DOHC/3L
- 車両重量:2110kg
- 最高出力:231kW(314PS)/6700rpm
- 最大トルク:368N・m(37.5kg・m)/5000rpm
- 駆動方式:全輪駆動(選択式)
- 乗車定員:6名
- 価格:1030万円



CT5

- 全長×全幅×全高:4925×1895×1445mm
- ホイールベース:2935mm
- エンジン:水冷4サイクル4気筒直列/LSY
- 車両重量:1680kg
- 最高出力:177kW(240PS)/5000rpm
- 最大トルク:350N・m(35.6kg・m)/1500～4000rpm
- 駆動方式:後輪駆動(※スポーツは全輪駆動)
- 乗車定員:5名
- 価格:690万円～(※写真はブラチナム)

Cartier

〈カルティエ〉の日本上陸50周年を祝う。

メゾンと日本の芸術・文化を “結ぶ”展覧会へ。

〈カルティエ〉が日本に最初のブティックを開いて、今年で50年。これを記念した展覧会“カルティエと日本 半世紀のあゆみ「結 MUSUBI」展—美と芸術をめぐる対話”が東京国立博物館で開催される。会期は6月12日(水)～7月28日(日)。本展の舞台となる表慶館では、〈カルティエ〉と日本、そしてカルティエ現代美術財団と日本のアーティストというふたつの“絆”が紐解かれる。メゾンと日本を結ぶ様々な“物語”がそこにある。

文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子 text : Takumi Endo composition : Keiko Oshima



Photo 2000 ©Cartier

D



Nils Herrmann,
Collection Cartier ©Cartier

C



Photo 2000 ©Cartier

A

1 〈カルティエ〉と日本を繋ぐ貴重な作品が集合。

表慶館右翼部分では、〈カルティエ〉の作品に日本がいかに影響を与えたのかを紹介。今日に至るまで、1988年以降に日本で開催されたカルティエの展覧会を振り返りながら、メゾンの歴史を“カルティエ コレクション”のアーカイブピースとともに約200点を紹介し、長い年月をかけて〈カルティエ〉と日本の間に育まれてきた絆を浮き彫りにする。



Amélie Garreau ©Cartier

B



C



F



E

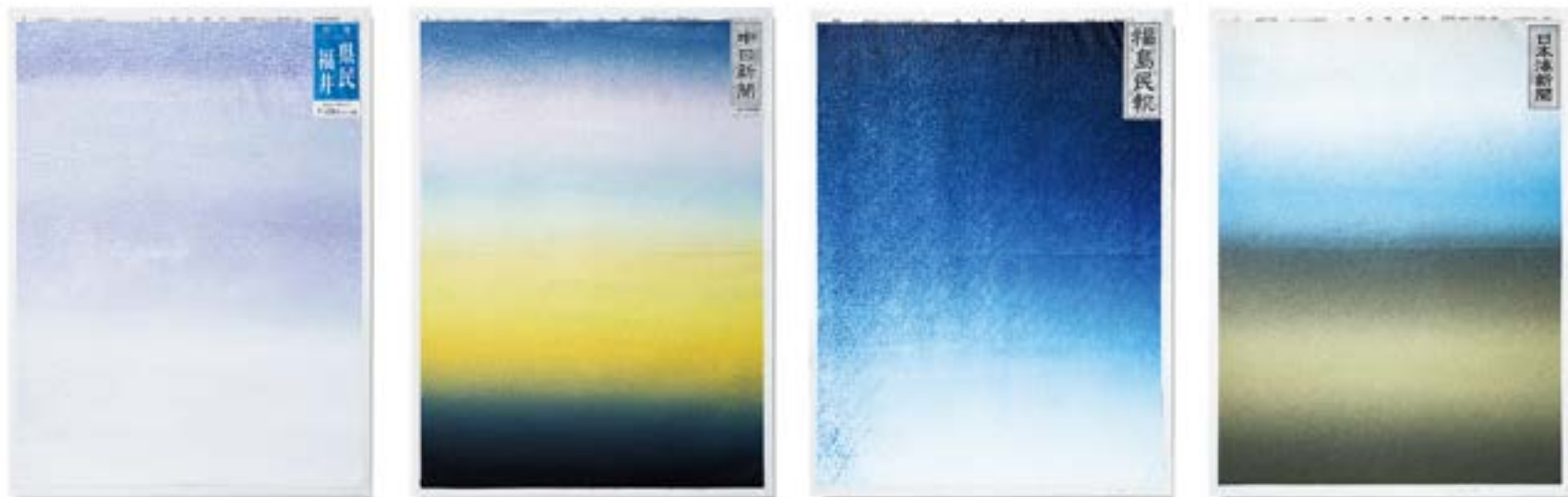
ともにMarian Gérard, Collection Cartier ©Cartier

Nils Herrmann,
Collection Cartier ©Cartier

A: “トーチ デコール”リストウォッチ、カルティエ、2011年 B: “バシャドゥ カルティエ”スケルトンウォッチ、カルティエ、2014年 C: ブローチ、カルティエ パリ、1903年 D: “ノット”リストウォッチ、カルティエ、2008年 E: 印籠からインスピレーションを受けたと思われるケース。シガレット ヴァニティケース、カルティエ ニューヨーク、1924年頃 F: 二段重ねの印籠、1890年頃 G: 鳥居をイメージした時計。上に乗っているのは、ビリケンさん。大型の“ボルティコ”ミステリークロック、カルティエ パリ、1923年

2 メゾン〈カルティエ〉とカルティエ現代美術財団を結ぶ 澁谷翔のインスタレーション。

左右対称の構造をなす表慶館の中心には、ブルックリン在住のアーティスト、澁谷翔によるインスタレーション“Fifty Sky Views of Japan (日本五十空景)”を展示。本展覧会のために作品を依頼された澁谷は、歌川広重と“東海道五十三次之内”にオマージュを捧げる作品を制作。日本橋から旅をはじめて47都道府県を訪れ、36日間かけて描いた連作が披露される。



浮世絵の巨匠に倣って日本橋から旅立ち、毎日地方日刊紙の1面に空を描きつづけた作品。澁谷翔“日本五十空景”、2024年

©Sho Shibuya, Fifty Sky Views of Japan

3 カルティエ現代美術財団がサポートする 最先端の日本のアーティストたち。

カルティエ現代美術財団を通じ、多くの日本人アーティストとの関係を築いてきた〈カルティエ〉。表慶館の左翼では、その絆を垣間見るべく、松井えり菜、村上隆、横尾忠則、杉本博司、荒木経惟といった同財団とゆかりのあるアーティストによる作品を展示。加えて川内倫子、森山大道、東芋、宮島達男、北野武、中川幸夫、三宅一生など、様々な分野のクリエイターたちとの結びつきも紹介する。



A

©Daido Moriyama Photo Foundation



B

©Yukio Nakagawa

A: 森山大道“TOKYO” B: 中川幸夫 “闇(ひらく)” 1976年 チューリップ・棕櫚縄 撮影・牧直視 C: 横尾忠則 “The Portraits of Japanese artists” Collection of the Fondation Cartier pour l'art contemporain, Paris



©Tadanori Yokoo ©André Morin



カルティエと日本 半世紀のあゆみ 「結 MUSUBI」展—美と芸術をめぐる対話

本展の空間構成は、カルティエ現代美術財団の大規模な回顧展のデザインを手掛けてきたスタジオ アドリアン ガルデールによるもの。床の間や数寄屋建築に着想を得たニッチやテーブルが、展示品を美しく引き立てる演出も見どころ。

会期: 2024年6月12日(水)~7月28日(日) 会場: 東京国立博物館 表慶館 住所: 東京都台東区上野公園13-9 開館時間: 9:30~17:00(金・土曜~19:00) ※入館は閉館30分前まで 休館日: 月曜、7月16日(火) ※7月15日(月・祝)は開館 料金: 一般1500円、大学生1200円 ☎050-5541-8600(ハローダイヤル)

日本文化と〈カルティエ〉が“対話”を繰り返してきた歴史は、3代目当主であるルイ・カルティエの時代である19世紀後半まで遡る。今回、東京国立博物館で開催される“カルティエと日本 半世紀のあゆみ「結 MUSUBI」展—美と芸術をめぐる対話”は、長い年月をかけて築かれたその“絆”を垣間見られる貴重な機会だ。その舞台となる表慶館では、貴重なアーカイブピースで構成される“カルティエ コレクシ

ョン”やプライベートコレクション、アーカイブ文書などを展示。展覧会名の“結”は、〈カルティエ〉と日本が育んできた絆を表すと同時に、メゾンの歴史的作品にたびたび見られる結び目のモチーフからインスピレーションを得たものでもあるという。美術愛好家であったルイ・カルティエが収集した日本の品々を思い起こさせる点もまた、興味深い。是非この機会に、メゾンと日本文化の“対話”に耳を傾けてみたい。

01

腕元から品格を感じさせるエレガントウォッチ。

主張しすぎず、素材やあしらい、メカニズムの贅沢さで、上質な雰囲気を出し出すエレガントウォッチ。
ドレシーでフォーマルなシーンにはもちろん似合うが、あえてカジュアルに使うのも粋だ。

記憶に残る
新作時計。

セレクト&文＝渋谷康人 構成＝池上隆太
select&text : Yasuhito Shibuya
composition : Ryuta Ikegami (AM5:00)

HARRY WINSTON

[ハリー・ウィンストン]

エメラルドとダイヤモンドの
ふたつの至高の輝きが腕元に。

2023年に誕生25周年を迎えた“HW オーシャン”コレクション。アシンメトリック(非対称)デザインの文字盤が特徴のこの新作はハイジュエリーメゾンらしい、人気のグリーン系でも高貴で希少なバゲットカットのエメラルドとダイヤモンド。その輝きが素晴らしい限定モデル。

HW オーシャン・デイトムーンフェイス
オートマティック 42mm

エメラルドやダイヤモンドなど、総計215個のジュエルを使ったモデル。ケース径42.2mm、ケース厚10.5mm、自動巻き、18KRGケース、アリゲーターストラップ、10気圧防水、世界限定25本。2907万3000円(ハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)



CARTIER

[カルティエ]

伝説の傑作が復活。
しかも自社製ムーブメントで。

名デザインぞろいの〈カルティエ〉のモデルで、時計マニアの間で伝説的なのが、フランス語で“亀”という意味を持つ優雅な曲線ケースの“トーチュ”。なかでも存在感際立つワンプッシュクロノグラフが、自社開発製造の新型ムーブメントを搭載して登場。今年のベスト1という評価も。

カルティエ プリヴェ「トーチュ」
モノプッシュクロノグラフ

時計マニアが狂喜した新開発ムーブメント“Cal.1928MC”を搭載。ケースサイズ43.7×34.8mm、ケース厚10.2mm、手巻き、Ptケース、アリゲーターストラップ、日常生活防水。世界限定200本、10月発売予定。予定価格930万6000円(カルティエ/カルティエ カスタマー サービスセンター)



© Cartier

PARMIGIANI FLEURIER

[パルミジャーニ・フルリエ]

メゾン伝説のドレスウォッチが
ミニマル&リッチに劇的復活。

1996年にブランドが誕生したときに生まれた、メゾンの“顔”ともいえるシンプルでドレスウォッチが、現代の感覚でリニューアルされ、ミニマルでリッチなデザインで再登場。ケース、文字盤、針、ムーブメントまですべてゴールド製で、随所に時計愛好家を虜にする作り込みが施されている。

トリック プティ・セコンド

手作業でグレイ加工された文字盤や繊細な色使いも、この時計の見逃せない魅力といえる。シンプルながら上質さを感じさせる仕上がりだ。ケース径40.6mm、ケース厚8.8mm、手巻き、18KRGケース、ヌバック加工アリゲーターストラップ、30m防水。709万5000円(パルミジャーニ・フルリエ)



CHOPARD

[ショパール]

究極のシンプルウォッチ
魅惑のグリーンダイヤル。

〈ショパール〉の自社製機械式ムーブメントを搭載する“L.U.C”コレクションの中でも、特に時計通に人気なのがXPS(エクストラブラットスモールセコンド)。このコレクションに、上品なグリーン文字盤の新作が登場した。ケースはもちろん独自素材“ルーセントスティール™”製。

L.U.C XPS フォレスト グリーン

ムーブメントはもちろん自社製の“Cal.L.U.C 96.12-L”。文字盤カラーは呼び名どおりに緑の森を彷彿させる美しい緑。ケース径40mm、ケース厚7.2mm、自動巻き、ルーセントスティール™ケース、カーフスキストラップ、30m防水。174万9000円(ショパール/ショパール ジャパン プレス)



GRAND SEIKO

[グランドセイコー]

ついに登場した新世代“GS”
待望の手巻きムーブメントモデル。

新世代の機械式自動巻きムーブメント“Cal.9S A5”を基本に、主ぜんまいの巻き上げ効率と感触にこだわって設計され、〈グランドセイコー〉で半世紀ぶりに誕生した手巻きムーブメント“Cal.9SA4”を搭載。今年、世界中の時計愛好家から最も絶賛を浴びた日本製ウォッチだ。

エボリューション9 コレクション SLGW003

自動巻きの9SA5から約40%を新設計し、巻き上げのコハゼを盛岡市の市鳥セキレイをモチーフにした遊びも秀逸。ケース径38.6mm、ケース厚9.95mm、手巻き、ブリリアントハードチタンケース、クロコダイラストラップ、3気圧防水。145万2000円(グランドセイコー/セイコーウォッチお客様相談室)



OMEGA

[オメガ]

モデル名にピッタリの
隕石文字盤の逸品。

“星座”を意味する名前の、1952年から続くブランドを代表する高精度モデル。最新作は文字盤に、太陽系ができたときの残骸として宇宙から降ってきた、独特の文様で知られる希少な隕石メテオライトを採用。搭載ムーブメントはもちろんオメガ自慢の“マスタークロノメーター”だ。

コンステレーション メテオライト

ひとつひとつ違う顔の文字盤を引き立てるケースのベゼルは、金属よりも硬いブラックセラミック製を採用。ダイヤルはロジウムグレーのガルバニック加工を施し、細部までこだわった。ケース径41mm、ケース厚13.5mm、自動巻き、SSケース&プレス、50m防水。149万6000円(オメガ)



02

気分も格も上がる最高峰のコンプリケーションウォッチ。

時計師たちのロマンを具現化したコンプリケーションウォッチ。世界3大時計ブランドとして名高い〈パテック フィリップ〉をはじめ、世界最高峰の匠たちが作る至高の作品をご覧ください。

AUDEMARS PIGUET

[オーデマ ピゲ]

絶妙な輝きを放つ
新素材ゴールドのロイヤル オーク。

ホワイトゴールドとピンクゴールドの中間のような色味で、しかも光の当たる角度でその色味が微妙に変化する新素材18Kサンドゴールドをケースとブレスレットに採用。この色味に合わせて装飾したスケルトンムーブメントも美しい。抜群の存在感で腕元を彩ってくれる。

ロイヤル オーク フライングトゥールビヨン
オープンワーク

18Kサンドゴールドの、当たる光の波長で微妙に変化する繊細な色味と輝きに、きっとあなたはビックリするはず。ケース径41mm、ケース厚10.6mm、自動巻き、18Kサンドゴールドケース & ブレス、5気圧防水。価格要問い合わせ。(オーデマ ピゲ/オーデマ ピゲ ジャパン)



PATEK PHILIPPE

[パテック フィリップ]

日付表示もいっさい調整不要に!
最新のワールドタイム機構を搭載。

普通に日付が翌日変わる際も、太平洋の真ん中の日付変更線を西から東に越えて日付が前日に戻る際も、日付表示が自動的に現地時刻に合わせて変わる。世界初の便利機能を実現した画期的な腕時計だ。昨年の東京で限定モデルとして発表されたモデルのレギュラーバージョン。

ワールドタイム 5330

特許取得の日付表示差動システムを搭載した新型ムーブメント“Cal. 240 HU C”を採用。ケース径40mm、ケース厚11.57mm、自動巻き、18KWGケース、カーフスキンストラップ、3気圧防水、1213万円(パテック フィリップ/パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター)



IWC

[アイダブリュー・シー]

400年で1回転する歯車搭載で
超正確なカレンダー機構を実現。

ほとんどの永久カレンダー機構は“永久”といっても400年に1度は調整が必要。永久カレンダーモデルを時計界に普及させた〈IWC〉はこの新作でそれをスマートに解決した。さらに超高精度なムーンフェイズ表示機構も実現。まさに“エターナル(永遠)”な逸品が誕生した。

ポルトギーゼ・エターナル・カレンダー

400年で1回転する歯車で“400年間に3回うるう年を省く”という暦の規則に対応。ムーンフェイズ表示は“4500万年に1日の誤差”という究極の精度を実現。ケース径44.4mm、ケース厚14.9mm、自動巻き、Ptケース、アリゲーターストラップ、5気圧防水。価格要問い合わせ(IWC)



JAEGER-LECOULTRE

[ジャガー・ルクルト]

メゾンのふたつの超絶メカニズムが
ひとつに融合した夢の超複雑時計。

“デュオメトル”とはふたつの機構、それぞれに独自の香箱と輪列を持たせることで、究極の精度を追求するメゾン独自のコンセプト。この新作では3軸トゥールビヨンによる時計機構とパーペチュアルカレンダー機構、それぞれが独立している。時計愛好家垂涎の超複雑時計だ。

デュオメトル・ヘリオトールビヨン・
パーペチュアル

〈ジャガー・ルクルト〉は2004年から2軸トゥールビヨンモデルを製品化している。この腕時計はその最新モデル。3軸で回転する仕様だ。ケース径44mm、ケース厚14.7mm、手巻き、18KPGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。価格要問い合わせ(ジャガー・ルクルト)



TAG HEUER

[タグ・ホイヤー]

天才技術者の指揮でついに誕生した
初のスプリットセコンドクロノ。

サーキットレースで先行する1台と、その後を追うもう1台。時間差のあるこの2台のマシンのラップタイムとそのタイム差を、通常の秒針に加えもう1本の秒針を使って1本で計測できる“スプリットセコンド機構”を搭載。なんとブランド初の製品化という記念すべきモデル。

タグ・ホイヤー モナコ スプリットセコンド
クロノグラフ

開発指揮は技術部門トップ、伝説の天才時計技術者キャロル・カザビ氏。ケースサイズ41×41mm、ケース厚15.2mm、自動巻き、Tiケース、ファブリックパタアンカーフストラップ、30m防水、6月発売予定。予定価格1672万円(タグ・ホイヤー/LVMHウォッチ・ジュエリー ジャパン タグ・ホイヤー)



ROGER DUBUIS

[ロジェ・デュブイ]

まるで太陽系のような“顔”の
センタートールビヨンモデル。

スーパーを超える“ハイパー”な複雑時計の世界を追求する超絶時計ブランド。ラテン語で“マシン”という名もついた新作は、文字盤中央にフライングトゥールビヨン機構を搭載する。時刻表示はインジケータがまるで太陽系の周回軌道をまわる惑星のようなロマンが漂うスケール感。

オルビス イン マキナ

現代彫刻のような同心円状の文字盤のディスクが分と時間を表示。特許出願中の新機構を使った“フライング針”を搭載する。ケース径45mm、手巻き、18KPGケース、カーフレザーストラップ、10気圧防水、世界限定88本。3509万円(ロジェ・デュブイ/ロジェ・デュブイ 銀座ブティック)



03 シーズンムードを盛り上げる爽やかな青ダイヤルウォッチ。

これからの季節の腕元を涼やかに彩ってくれるのがブルーダイヤルの腕時計。空の色やデニム生地を彷彿させる爽やかなアイスブルー系がトレンドだが、深い海のような濃いブルーも大人らしい趣を見せる。

CZAPEK

[チャベック]

非対称デザインで魅力が際立つ グランフー・エナメルが美しい。

2012年12月に創立された〈チャベック〉は時計愛好家の出資で生まれたマイクロメゾン(小規模時計ブランド)のひとつ。この新作は、エナメル文字盤製作のスペシャリストメーカーが作った高温焼成エナメルの美しさが際立つ逸品。これも小規模メーカーならではの名作だ。



ブルムナード グット・ドー

ムーブメントや手作りのエナメル文字盤など、あらゆるディテールに至るまで納得の作り込みが光っている。ケース径38mm、ケース厚10.6mm、自動巻き、SSケース、ヌバックレザーストラップ、5気圧防水、世界限定100本。予定価格407万円(チャベック/ノーブルスタイリング)

ANGELUS

[アンジェラス]

嵐の空? の色の文字盤の下は、 なんとチタン&カーボン製!?

1891年創業の老舗ブランドでじわじわ人気が高まっている〈アンジェラス〉。このツインダイヤルクロノはクールなストームブルー(嵐の空)カラー文字盤。一見、古典的だがインナーケースはカーボン複合素材の削り出し、ケースとブレスはチタン製という意外性も大きな魅力。



クロノデイト チタン ストームブルー エ디션

ミドルケースとラグが一体構造になったケースとチタンブレスレットの組み合わせで、装着感も軽快だ。ケース径42.5mm、ケース厚14.25mm、自動巻き、チタン+カーボン複合素材ケース、チタンブレス、3気圧防水。予定価格440万円(アンジェラス/アーノルド&サン相談室)

FREDERIQUE CONSTANT

[フレデリック・コンスタント]

“マニファクチュール”の新作は 待望のムーンフェイス表示を搭載。

創業者の志を受け継ぎ、いつも価格以上の魅力を持つ機械式モデルを届けてくれるジュネーブの新進ブランド。この新作はムーンフェイス表示を備えた新型マニファクチュール(自社開発製造)ムーブメントを搭載。ムーンフェイスの外周部にポインターデイト式日付表示も備える。



クラシック ムーンフェイス デイト マニファクチュール

ソレイユ仕上げの文字盤も美しく、自慢のムーブメントの姿はシースルーのケースバックからいつでも鑑賞できる。ケース径40mm、ケース厚11.7mm、自動巻き、SSケース、アリゲーターストラップ、5気圧防水。予定価格66万円(フレデリック・コンスタント/フレデリック・コンスタント相談室)

BREITLING

[ブライトリング]

クールなアイスブルー文字盤! 使いやすさ抜群のGMTモデル。

クロノグラフに加えシンプルモデルも充実している“ナビタイマー”コレクション。そのGMT(デュアルタイム)モデルの新作はクールなアイスブルー文字盤。もちろんCOSC認定クロノメーターの高精度で、刻み入りの回転ベゼルにはクロノグラフ同様、計算尺を搭載する。



ナビタイマー オートマチック GMT 41

GMT針の修正はリュウズを1段階引き出して、時計まわりにまわすことで行える。反時計方向に回すと日付表示の修正が可能だ。ケース径41mm、ケース厚11.6mm、自動巻き、SSケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。77万6600円(ブライトリング/ブライトリング・ジャパン)

CHRONOSWISS

[クロノスイス]

爽やかなブルーダイヤルの 新世代レギュレーターモデル。

時計技術者で時計研究家のゲルト・ラング氏が1983年に創業し、時計愛好家から熱い支持を得た〈クロノスイス〉。その情熱を受け継いだオリバー・エブシュテイン氏が今年発表したこの新作は、人気のレギュレーターモデルの新世代モデル。あざやかな色の文字盤も新たな魅力だ。



ストライク・ツウ H20

3時位置のインダイヤルで“時”、中央の針で“分”、9時位置で“秒”を表示するレギュレーター式の時刻表示が特徴。ケース径40mm、ケース厚12.7mm、自動巻き、SSケース、カーフストラップ、3気圧防水、世界限定100本。予定価格205万7000円(クロノスイス/栄光時計)

RAYMOND WEIL

[レイモンド・ウェイル]

ありそうでなかったサイズ感! 直径35mmサイズが新登場。

クラシックな時計デザインに現代的解釈を加えた“ネオ・ヴィンテージ”デザイン。そして30万円台という魅力的な価格で、2023年のジュネーブ・ウォッチ・グランプリに輝いた“ミレジム”。今年はひとまわり小ぶりなセンターセコンドモデルが登場。絶妙なサイズ感がたまらない!



ミレジム オートマチック センターセコンド

ケースサイズの小型化で既存モデルよりさらにヴィンテージ感がアップ。デニムカラーのセクターダイヤルも味わい深い。ケース径35mm、ケース厚9.18mm、自動巻き、SSケース、カーフストラップ、50m防水。34万1000円(レイモンド・ウェイル/ジーエムインターナショナル)

04

より軽快でアクティブにいられるスポーツウォッチ。

軽やかで活動的な印象を与えるなら、スポーツウォッチを選択。普段はオーバースペックにも思える機能が新しいアクティビティに挑戦したいというポジティブな大人に、さらなる勇気をくれるはず。

ZENITH

[ゼニス]

マニアしか知らなかったモデルが半世紀を経てリスタート。

〈ゼニス〉といえばクロノグラフ。この“常識”を破るまさかの新作が600m防水のこのダイバーズ。同時復刻された1969年当時のモデルをリファインした1970年代テイストのデザインはスポーティで新鮮。ムーブメントはもちろんメゾン自慢のハイビート“エル・プリメロ”だ！

ゼニス デファイ エクストリーム ダイバー

プレスとストラップはボタンひとつで簡単に交換できるクイックチェンジシステムを採用。ケース径42.5mm、ケース厚15.1mm、自動巻き、チタンケース&プレス(交換用ストラップ2本付属)、60気圧防水。149万6000円(ゼニス/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ゼニス)



PIAGET

[ピアジェ]

自然豊かな森の緑を彷彿させるグリーンモデルのクロノグラフ版。

1979年に初代が誕生したメゾンの代表作。クッション型のダイヤルとラウンド型のベゼルを組み合わせたシェイプインシェイプ(異なる形の組み合わせ)が特徴。昨年に登場したグリーンダイヤルモデルにクロノグラフが加わった。もちろん薄型設計でつけ心地もとても軽快だ。

ピアジェ ポロ

サイドストライプの入ったグリーンの文字盤は、モデル名にも入っているポロ競技場。美しく整備されたその緑の芝の色を彷彿させる。ケース径42mm、ケース厚11.2mm、自動巻き、SSケース&プレス、10気圧防水。294万8000円(ピアジェ/ピアジェ コンタクトセンター)



BELL & ROSS

[ベル&ロス]

ブロンズケースとグリーン文字盤の味わい深い色合わせが絶妙。

コックピット譲りのスクエアケースで“ダイバーズ＝ラウンドケース”という常識を打ち破り、さらにブロンズケース&あざやかカラー文字盤の組み合わせで登場した人気の“BR 03-92”のダイバーズコレクション。最新作はグリーン文字盤を採用。ブロンズケースと色合わせが新鮮だ。

BR 03-92 ダイバー ブラック&グリーンブロンズ

使い込むほどに味わい深い色味になるブロンズケース。“育てる”楽しみもこのモデルの魅力。ケースサイズ42×42mm、ケース厚12.05mm、自動巻き、ブロンズケース、ファブリックストラップ、あるいはラバーストラップ、300m防水。74万8000円(ベル&ロス/ベル&ロス 銀座ブティック)



PANERAI

[パネライ]

世界の戦いに挑むヨットチームとのコラボはチタン系新素材を採用。

〈パネライ〉の新作は、今年開催される世界最高のヨットレース“アメリカズカップ”に参戦する“ルナ・ロッサ ブラダ ビレリ セーリング チーム”とのコラボレーションモデル一色！ このモデルはチタンをセラミック化した独自素材“Ti-Ceramitech™”をケースに採用する。

サブマーシブル クアランタクアトロ
ルナ・ロッサ Ti-Ceramitech™

“Ti-Ceramitech™”はチタン合金の表面をセラミックス層に変化させたもの。従来のセラミックスより約10倍丈夫だという。ケース径44mm、ケース厚13.6mm、自動巻き、Ti-Ceramitech™ ケース、ラバー&テキスタイルストラップ、500m防水。233万2000円(パネライ/オフィチーネ パネライ)



LONGINES

[ロンジン]

ここまでよくなると、不満なし！レトロダイバーズの絶対定番に。

リュウズで操作するインナーベゼル、矢印型の時針など、レトロダイバーズの主役となった“レジェンドダイバー”。最新作はデイリーウォッチとして使いやすい直径39mmサイズ。しかもCOSC公認クロノメーターで、ISOが定めるダイバーズの規格もクリア。これは大進化だ。

ロンジン レジェンドダイバー

最新のシリコン製パーツを採用したムーブメントは、高い耐磁性を備えているのが魅力。しかも、この価格で品質保証期間が5年間という長期間なのも嬉しいところだ。ケース径39mm、ケース厚12.7mm、自動巻き、SSケース&プレス、30気圧防水。51万4000円(ロンジン)



TUDOR

[チューダー]

さり気なくGMT機能を進化させた時計のプロ絶賛の“隠れた名作”。

憧れのヴィンテージウォッチのテイストと最新の機械式ムーブメントによる最新の機能。それをいつも魅力的な価格で実現してくれる〈チューダー〉。なかでもこの新作は機械式では画期的な“GMT針による第2時間帯表示”と“日付の瞬時日送り”を両立した時計のプロ絶賛の1本。

ブラックベイ 58 GMT

適度なヴィンテージ感がたまらない“ブラックベイ”コレクションの中でも、海外旅行する人には是非おすすめのGMT(デュアルタイム)モデル。ケース径39mm、ケース厚12.8mm、自動巻き、SSケース&プレス、200m防水。64万3500円(チューダー/日本ロレックス/チューダー)



この夏は“ラグジュアリーで快適”な1着を。

リーダーが選ぶ 軽くて涼しいスーツ。

夏のビジネスカジュアルが浸透した時代だからこそ、スーツを着用する際は、その着こなしに視線が注がれる。リーダーともなればその注目度は高く、常に見られている意識が必要だろう。そんなとき、涼しげかつ快適な1着を颯爽と着こなしていたら周囲に好印象を与えられ、仕事も捗るに違いない。ここで集めたラグジュアリーな新作が、そんな理想をあざやかに叶えてくれる。

写真＝野口貴司 スタイルリング＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝中嶋竜司
文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子

photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (Ca.VN)
hair&make-up : Ryuji Nakashima (HAPP'S) text : Takumi Endo
composition : Keiko Oshima

GIORGIO ARMANI

涼しげにして、エレガント。
夏スーツの理想形を体現。

美しいシルエットを描きながら、軽やかな着心地を実現する仕立ては、〈ジョルジオ アルマーニ〉のお家芸。リネンとバージンウールの軽さとしなやかさを生かした背抜き仕立てだが、肩やバストまわりはエレガントなシルエットを保って着ることが可能。涼しい顔で着こなしながら、凛々しさをしっかり印象づけられる。パンツはすっきり穿けるスリムフィットで、軽快な足捌きで歩く姿も夏の街では印象的に映りそうだ。

スーツ53万9000円、シャツ7万9200円、ネクタイ2万7500円、ポケットチーフ〈オーダー価格〉3万8000円～(ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

point!





A 夏のダブルスーツは、仕立ても手触りも一級品の1着で。

クリエイティブ ディレクターのキム・ジョーンズが、メゾンのテイラーリング技術をモダンに昇華したダブルブレストスーツ。副資材を極力使わずにこのグラマラスなシルエットを描く技術も秀逸だが、バージンウールとモヘヤをブレンドした生地も出色の出来栄。非常に薄くて軽量なので風通しがよく、触れたときにほんのり冷たく感じる感触も、これからの季節には嬉しいポイント。取り外し可能な“CD ICON”のラベルピンが付属している。

B ブルーの清涼感をエレガントに味方につける。

ウエストを絞り、肩やバストまわりの構築感を強調したシルエットは精悍そのものだが、実際に袖を通すとそのソフトで軽い着心地に驚かされる。採用した生地はほんのり洗いをかけたウォッシュドリネンで、“ブルー・ドウ・スマルト”と呼ばれる柔らかな配色で清涼感を呼び込む効果も期待できそう。写真のようにVゾーンをブルーで揃えたタイドアップにもよく映えるが、Tシャツでカジュアルに着こなしてもこの精悍さを保てるので、是非お試しを。

C 着ていること感じさせない軽さとしなやかさが白眉。

アンコン仕立てをベースに薄い肩パッドを入れ、構築的なスタイルを打ち出した“ニュー プリウム”の新作。サステナブルな観点で厳選されたバージンウールの生地は袖を通したときに驚きを覚えるほどのしなやかさで、“空気のように”と形容されるほどの軽さも実現している。加えてベージュとキャメルの中間的な配色も新鮮かつ絶妙で、これがサマースーツとしては頭ひとつ抜けた品のよさを印象づけてくれる点も、特筆すべき魅力といえそう。



Graffiti

[グラフィティ]

A: PT×ダイヤモンド×サファイアのイヤリング227万7000円 B: PT×ダイヤモンド×サファイアのペンダント232万1000円 C: PT×ダイヤモンドのイヤリング 249万7000円 D: PT×ダイヤモンドのペンダント254万1000円(以上ハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)

HARRY WINSTON

NYのストリートアートを大胆に解釈した〈ハリー・ウィンストン〉の新作。

“グラフィティ”でペアでもシェアでも遊び心を。

〈ハリー・ウィンストン〉創業の地であるNYからインスパイアされた“ニューヨーク・コレクション”。
その中でもパートナーとともに楽しめるジェンダーニュートラルなデザインの“グラフィティ”から新作が登場。
今のムードに寄り添うモダンなジュエリーはラグジュアリーでいながらさりげなく、2人の夏スタイルを盛り上げてくれるはず。

文＝岡村佳代 構成＝大嶋慧子
text : Kayo Okamura composition : Keiko Oshima



イニシャルやロゴといった、ブランドをストレートに象徴するモチーフが主役のアイテムは、そのセレクトとコーディネートで洗練度が大きく変わってくる“センスのリトマス紙”だ。大人の男がまとうジュエリーならなおさら、モダンなエッセンスと遊び心が必要となるだろう。

そんなエレメンツをすべて併せ持つジュエリーが、〈ハリー・ウィンストン〉の“ニューヨーク・コレクション”から登場し

た。モダンでプレイフルなデザインが際立つ“グラフィティ”。その名のとおり、グラフィティアートからインスパイアされた“HW”のイニシャルは、主張がありながらも軽やかで、若々しい躍動感にあふれ、それがラグジュアリーの新境地を拓く。

たとえばペンダントとイヤリングをパートナーとシェアしてみるのはいかが？ 1人は胸元、もう1人は耳元で同じデザインをまとうという、ワンランク上のペアジュエリーとして堪能するのも粋だ。

Gastronomic City Singapore*

今マストで行くべき! シンガポールのモダン中華料理店。

2024年度『アジアのベストレストラン50』で初のトップ100入り。
アジア圏のフーディや食のプロたちが、その卓越した料理表現とてなし力で
注目する次世代中華料理の〈ピーチ ブロッサムズ〉。

取材・文＝中村孝則 text : Takanori Nakamura



A:「キャラメリゼ・アップルウッド燻製ハモン・イベリコ豚バラ肉」は、スペイン産のイベリコ豚のバラ肉を一晩マリネした後に、備長炭で丹念に焼き上げ、リンゴの木で燻製して香りつけた逸品 B:木調のナチュラルな雰囲気の明るく広い店内からは、マリーナ・ベイの風景が望める C:20年のキャリアを誇るエドワード・チョンは、アジアを代表する期待のスターシェフの1人 D:「蟹卵のコラーゲン入り緑豆麺の煮込み・海老のムースを詰めた蟹爪添え」は蟹の身、海老、菱餅から作られたシーフードペーストで味わう絶品の麺料理

中華料理店をガストロノミーの文脈で進化させるとこうなるという、ひとつの姿を明確に示している注目すべきレストランである。

今回ご紹介する〈ピーチ ブロッサムズ〉は、2020年12月にシンガポールの〈パークロイヤル・コレクション・マリーナ・ベイ・ホテル〉の5階にオープンした。北欧風のナチュラルな木調の内装、フォトジェニックで表現力豊かな料理や、スタッフのスタイリッシュなプレゼンテーションなど、どこを切り取っても、いわゆる「ホテルの中華料理店」とは、いい意味で予想を大きく裏切るのである。

今年3月に開催された2024年度の『アジアのベストレストラン50』では74位につけ、初の100位以内のランクインを果たし注目が集まっている。来年の同アワードではさらに上位が期待できるニュース

ターの一軒と呼び声も高い。筆者も、昨年はじめて訪れ魅了された1人である。

さて肝心な料理だが、どの皿もフォトジェニックでユニークな盛りつけが目目を引く。見た目以上に味わいも垢抜けていて、美味しいのはもちろんだが驚きや楽しさにあふれている。たとえば最初のアミューズに出される一品は、シガーケースとともに提供され、中から本物と見間違えうほど精巧にできたシガーを味わう趣向。これは海老が入った揚げシガーロールで、芯の部分は黒トリュフやフォアグラなどで調理され、甘美で極上の味わい。

エグゼクティブ・シェフのエドワード・チョンは、この道20年のキャリアを持ち、中華料理の伝統や調理の基礎をみっちり身につけ、300のレシピを持っているという。彼の料理の特徴は、正真正銘の中華料理でありながら、随所にモダンでユ

ニークな表現を施し、味わいにもサプライズがあるところ。先のシガーロールのように、素材も中華料理の枠を超えて、世界中から最旬のものを駆使している。いい食材であればフランス料理や日本料理、あるいはエスニック料理で使うフレーバーを積極的に取り入れているのも特徴。

ご存知のとおり、シンガポールは食材のほとんどを輸入に頼っている国だが、そのハンディキャップを逆手に取ったクリエイションという見方もできそう。かといってマニアックで難解な料理ではなく、誰でも楽しめる味わいに落とし込んでいところが人気の理由か。これも、多文化国家のシンガポールらしいレストランとして評価すべきだろう。グループでも1人でも楽しめる雰囲気がまたいい。同国を訪れたらマストで行くべき店と個人的にも太鼓判を押したい。

DATA

Peach Blossoms

[ピーチ ブロッサムズ]

④6 Raffles Boulevard,
Marina Square Singapore 039594
☎+65-6845-1000
<https://www.panpacific.com/ja/hotels-and-resorts/pr-collection-marina-bay/dining/peach-blossoms.html>



取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県葉山生まれ。ファッションからカルチャー、美食などをテーマに新聞や雑誌、テレビで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼修業』（世界文化社）がある。2013年より『世界ベストレストラン50』の日本評議委員長を務める。'22年春、JR九州が運行する「ななつ星in九州」の車内誌の編集長に就任。

1

EA7 EMPORIO ARMANI

[EA7 エンポリオ アルマーニ]

いつでも品格を損なわない
機能とデザインを両得。

胸にイーグルロゴを配したアイコン的なデザインのポロシャツは、テニスをイメージソースにしたクリーンな色使いが持ち味。フェアウェイでも、シックで都会的なスタイルを演出するのにひと役買ってくれる。ボディには、“VENTUS7”と呼ばれるテクニカル素材を採用。通気性に優れていて、ラウンド中も体温を一定に保ってくれるのがありがたい。気温や湿度が上昇する季節の必需品となりそうだ。

ポロシャツ1万5400円 (EA7 エンポリオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)、パンツ4万9500円、手に持った帽子2万4200円 (以上 エンポリオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

Urban GOLF STYLE Vol.8

頼れる機能で、クールなプレイを叶える快適ポロ。

本格的な暑さが到来すると、もちろん気分もプレイもアツくなる。

といっても、フェアウェイでは、いつだって快適でいたい。

そんなワガママに応えてくれるのが、吸水速乾や接触冷感といった頼れる機能を備えたウエア。その筆頭は、主役を張るポロシャツ。

写真＝野口貴司 スタイルिंग＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝中嶋竜司

文＝長谷川茂雄 構成＝大嶋慧子 撮影協力＝鎌倉カントリークラブ

photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (CaNN)

hair&make-up : Ryuji Nakashima (HAPPY'S) text : Shigeo Hasegawa

composition : Keiko Oshima special thanks : KAMAKURA COUNTRY CLUB

TITLEIST

[タイトリスト]

高機能が詰まった開放感満点の1枚。

フェザー柄をあしらったプリントが、コース内外で開放感を高める。接触冷感、吸水速乾、UVケア、ストレッチと、多機能を備えたボディは、一度着ると病みつきになる。梅雨時期のラウンドの強い味方となってくれることは間違いない。ボタンドアンの仕様のコンパクトな襟も、首元スッキリでプレイしやすい。



MARK & LONA

[マーク & ロナ]

フェアウェイはもちろん
旅先でも頼りになる相棒。

高機能と洗練されたデザインを備えた“DST”コレクションから登場したポロシャツは、フライトチケット風のロゴプリントが目印。ストレッチ性の高いボディには、ロイヤルクール加工が施され、毛羽を削ぎ落とすことで接触冷感機能を高めている。旅の相棒にも最適な都会派ポロの決定版。

ポロシャツ3万800円、パンツ4万700円、帽子1万3200円、手袋7150円(以上マーク & ロナ/マーク & ロナ表参道ヒルズ店)、その他はスタイリスト私物



ポロシャツ1万5400円、パンツ1万6500円、ベルト8250円、帽子3520円(以上タイトリスト/アクシネット ジャパン インク)、その他はスタイリスト私物



PEARLY GATES

[パーリーゲイツ]

群を抜く接触冷感性と
汎用性の高さが決め手。

サッカー素材のポロシャツは数あれど、こちらは通常のナイロンよりも冷感性に優れたオプティマクール糸を使っているため、ひんやりとした着心地のよさはピカイチ。しかも吸湿性や放湿性も兼ね備えているとあって、夏のラウンドではその快適さが際立つ。雨が降った後の高温多湿なコースでも、安心度は高い。

ポロシャツ1万9800円、ショーツ2万8600円、帽子8580円、ベルト1万4300円、手袋4620円(以上パーリーゲイツ)、その他はスタイリスト私物

5

TAYLORMADE APPAREL

〔テーラーメイドアパレル〕

夏のラウンドを後押しする
目を引く柄と“ひんやり感”。

ホワイtpantsと好相性なのは、グラデーションを描くモダンな柄をあしらったスリムシルエットのポロシャツ。ストレッチを効かせてボディにフィットする心地よさに加えて、冷感を持続する機能素材“T-ICE”を使用しているため、ひんやりとした着心地が味わえる。長時間、嫌なムレやベタつきといった不快感が軽減されるから、スコアメイクに集中できる。まさにクールなプレイに欠かせない。

ポロシャツ1万7600円、パンツ1万4300円、キャディバッグ3万5200円（以上テーラーメイドアパレル／テーラーメイド ゴルフ）、その他はスタイリスト私物





開放的なプリントが夏のゴルフを彩る。

モックネックシャツの背中には、カリフォルニアのゴルフコースをイメージしたフォトプリントをオン。吸水速乾性の高い生地と相まって、着心地も気分も爽快にプレイできる！



進化を極めた清涼感と爽快感。

〈テラーメイドアパレル〉が誇る冷感機能素材“T-ICE”がさらに進化。発汗時冷却性と接触冷感性の持続性が強化され、通気性を高めることなどで、かつてない涼感を実現！

CLUB TAYLORMADE

夏ゴルフを思う存分楽しめる“クラブ テラーメイド”。

爽やかなワンポイントロゴのモックネックシャツに、レモンイエローのロゴショーツを合わせた開放感あふれるコーディネート。シャツの背中にはフォトプリント入り。バックプリントモックネックシャツ9900円、ロゴ総柄ショーツ1万3200円、リバーシブルバケットハット6050円(以上テラーメイドアパレル/テラーメイドゴルフ)、パター 5万600円(テラーメイド/テラーメイドゴルフ)



TOUR TAYLORMADE

“ツアー テラーメイド”で暑さに負けないプレイを。

涼しげなアイスマントカラーのモックネックシャツに、シンプルな黒ショーツを合わせたストイックなゴルフスタイル。どちらにも進化した“T-ICE”素材が採用されていて、真夏の熱い勝負をクールに後押ししてくれそう。モックネックシャツ1万4300円、黒ショーツ1万6500円、サンバイザー 4400円、ベルト7480円、ソックス1540円、グローブ1870円、キャディバッグ実勢価格3万5200円(以上テラーメイドアパレル/テラーメイドゴルフ)、ドライバー 8万6130円、FW各5万4450円、レスキュー各4万5540円、アイアン#6-PWセット12万6500円、ウェッジ各2万6730円、パター 5万600円(以上テラーメイド/テラーメイドゴルフ)、シューズはスタイリスト私物
*実勢価格は編集部調べ

TaylorMade Apparel

〈テラーメイドアパレル〉で真夏のラウンドをエンジョイ。

夏のゴルフは快適&スタイリッシュが常識。

暑い夏のラウンド。涼しく快適にプレイしたいけれど、それだけに気を取られているようではまだまだ。そこで、ゴルフファッションにもうるさいモデル&タレントの石倉ノアが、この夏にぴったりのゴルフコーデを紹介。〈テラーメイドアパレル〉のふたつのラインの中から、大人ゴルファーにおすすめのスタイルを提案してくれた。

写真＝筒井義昭 スタイルング＝Kim-Chang ヘア&メイク＝松本 恵
photo: Yoshiaki Tsutsui styling: Kim-Chang hair&make-up: Megumi Matsumoto

PROFILE 石倉ノア

1996年、オーストリア生まれ。恋愛リアリティショー番組「テラスハウス」への出演で人気を集める。2019年からは雑誌「Fine」のレギュラーモデルに。現在、モデル、タレントとして活躍中。

腕時計121万円(ヤーマン&ストゥービ/ミスズ)、ベスト3万6300円、 Poloシャツ1万8700円、パンツ6万9300円(以上EA7 エンポリオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

〈ヤーマン&ストゥービ〉とは？

ゴルフをこよなく愛する実業家ウルス・ヤーマンの構想に、時計師バスケル・ストゥービが共感し2007年に設立。機械式時計にゴルフカウンター機能とショックアブソーバーを搭載。ゴルフ発祥の地とされる、セント・アンドリュース・リンクスの公式時計ブランドだったことも。

JAERMANN & STÜBI

〈ヤーマン&ストゥービ〉はすべてのゴルファーの憧れ。

伝統と革新が融合した ゴルフカウンター付き腕時計。

デジタルガジェットを頼りに、ラウンドを楽しむ。今では当たり前の光景だけど、自然の中で爽快にプレイするひとときには、ちょっとそぐわないと思うかも。ここはひとつ、本格的な機械式時計なのにゴルフのプレイにも役立つ、〈ヤーマン&ストゥービ〉のゴルフウォッチで、存分にゴルフを楽しもう。

写真＝野口貴司、正重智生 スタイルリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝中嶋竜司

文＝八木悠太 構成＝大嶋慧子 撮影協力＝鎌倉カントリークラブ

photo : Takashi Noguchi, Tomoo Syoju (BOIL) styling : Kan Nakagawara (CaVN)

hair&make-up : Ryuji Nakashima (HAPP'S) text : Yuta Yagi

composition : Keiko Oshima special thanks : KAMAKURA COUNTRY CLUB

ゴルフのスコアメイクを助けてくれるスマートウォッチや専用アプリが多くある昨今。GPSセンサーがプレイ中のコースを割り出し、ホールレイアウトや攻略法を提示し、なんならスコアの記録集計も自動的に行ってくれるものもある。たしかに素晴らしいけれど、こんなにも頼りになるものはない。けれど、一打ごとに手元の画面をイジっては脱む様子は、壮大な自然に囲まれた中でプレイする開放感を、損ねてしまうことも。必要なのはスコアカウンタ

ーくらいで、あとは自身の経験と五感を頼りに、のびのびとプレイしたいものだ。もしこの思いに共感してもらえるなら、是非使ってほしいのが〈ヤーマン&ストゥービ〉のゴルフウォッチ。なにより随所に高級時計らしさを感じる面構えに仕上がった、本格派の機械式というところに、魅力とロマンを感じるはず。一方でゴルフカウンターの操作は実に簡単で、スウィングインパクトの衝撃にも耐えるなど、納得の実用性も誇る。多くの大人ゴルファーに試してほしい、珠玉の1本だ。



ケースはPVD加工を施したマットブラックのチタン製。プッシュボタンと磨き上げ方を変えることで、表情をより豊かに仕上げた

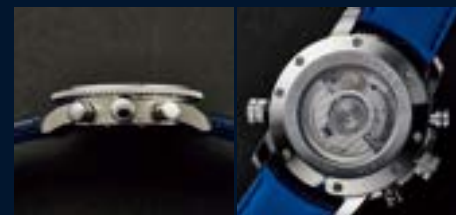
モデル着用はコレ!



JAERMANN & STÜBI TIME TO PLAY TP11

[ヤーマン&ストゥービ タイムトゥ プレイ TP11]

文字盤、ベルト、ともに青で染めた爽やかなモデル。機械式のゴルフカウンターは、1ホールごとのストローク数と総合スコアをカウントし、プレイ中のホールを表示。4時位置に設計されたリュウズは、手首を傷めないための配慮。ケース径44mm、自動巻き、SSケース、アリゲーターストラップ、10気圧防水。121万円(ヤーマン&ストゥービ/ミスズ)



右: クロノグラフにも匹敵するといわれる、複雑な機械式の動きを少しでも覗くことができる、裏スケ仕様 左: ケース厚は14.4mmと平均的で、決してプレイの邪魔にならない

JAERMANN & STÜBI EAGLE HEART EH1

[ヤーマン&ストゥービ イーグル ハート EH1]

他の金属に比べて軽量で高強度、耐食性にも優れるチタンケースと、汗に強いラバーベルトのコンビで、印象はスポーティ。ダイヤルの外周とベゼルメーターを連動させれば、ネットもグロスもスコアを楽々管理できる。ケース径44mm、自動巻き、PVD加工チタンケース、ラバーストラップ、10気圧防水。121万円(ヤーマン&ストゥービ/ミスズ)

〈ファルコネーリ〉とは？

イタリアの伝統的で高品質なカシミアや天然繊維に特化したニットブランド。メイド・イン・イタリアにこだわった、メンズ、ウィメンズのコレクションを豊富に取り扱っている。2021年には路面店を銀座にオープンした。

color
variation



CODE JACKET

[コードジャケット]

カシミアで有名なブランドだが、コットンやリネンも上質で定評がある。コットンリネン素材をコード状に編み込んだ独特な編み柄が特徴的なニットジャケット。この編み方により、通気性に優れた快適な着心地に。シワになりにくいので旅や長時間の移動を伴う出張に便利なのも嬉しい。ナチュラルなエクリュと深いネイビーが人気色。ほかにベージュもある。各5万9400円(以上ファルコネーリ／ファルコネーリ銀座店)

中に着たニット2万8600円、パンツ3万3000円(以上ファルコネーリ／ファルコネーリ銀座店)、その他はスタイリスト私物

FALCONERI

シンプルで上品な〈ファルコネーリ〉の新作。

リラックスムードが漂う
タイムレスな上質ニット。

これからの季節、大人のカジュアルを手軽に格上げしてくれるサマーニット。シンプルで高品質なほど快適で、飽きがこず長く着られるのは、周知の事実。しかも、それが見た目にも上品ならオフタイムはもちろんオンにも活躍させたい。そんなわがままな大人を満足させるアイテムが〈ファルコネーリ〉に多数揃う。

写真＝野口貴司、正重智生 スタイルリング＝中川原 寛 ヘア＆メイク＝中嶋竜司 構成＆文＝大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi, Tomoo Syoju (BOIL) styling : Kan Nakagawara (CaVN)
hair&make-up : Ryuji Nakashima (HAPP'S) composition&text : Keiko Oshima

1. KNIT JACKET



大

人の品格が漂う夏のカジュアルアイテムといえばやはりサマーニット。取り入れることで、上品かつ大人の貴族を表現できるはず。今回紹介するサマーニットは、上質なコットンリネン、そしてこのブランドが得意とするウルトラファインカシミア製。もともと〈ファルコネーリ〉はカシミア製品が得意なブランド。モンゴルから直輸入した最高級のカシミアをイタリアの自社工場で職人の手により糸から生産している。だからこそ、サマーニットになるような、薄手のカシミア製品を作り出すことが可能になる。このセットアップも薄く、まるでシルクのようにサラッとした肌触り。ニットジャケットも通気性のよいリラックスした着心地でオフタイムはもちろんオンでも活躍しそうだ。

2. SET UP

color
variation



ULTRA FINE CASHMERE SET UP

〔ウルトラ ファイン カシミア セットアップ〕

まるでシルクのように柔らかでサラッとした手触りが魅力のウルトラファインカシミア製のスウェットパーカとパンツ。軽くて快適な着心地で、休日姿を上品に演出してくれるのはもちろん、テレワークでも活躍させたい。ローレルグリーンやジャヴァブルーと呼ばれる美しくも珍しいカラーは、このブランドが得意とするところ。スウェットパーカ各5万1590円、スウェットパンツ各5万6540円（以上ファルコネーリ／ファルコネーリ銀座店）

中に着たりネンTシャツ1万9800円、手に持ったブルゾン9万9900円（以上ファルコネーリ／ファルコネーリ銀座店）、その他はスタイリスト私物

DEVICE1 SNEAKER

[デバイスワン スニーカー]

ビジネスの足元に軽やかで丈夫、
そして、清潔感あふれるスニーカーを。

アクティブなビジネスパーソンから絶大な人気を誇る〈アウル〉。なかでも上質レザーと美しいシルエットで定評のあるスニーカーブランド〈デバイス1〉。4cmある厚いソールや、驚くほど軽く、快適な履き心地を生み出す踵のクッション性など、考えられた機能美は、実際に履いた人を“トリコ”にする。もちろん、柔らかで足に馴染むアッパーのレザーは健在。シューレースストップなどのメタルパーツもゴールドでラグジュアリーな1足。

AOURE

〈アウル〉の2大定番アイテムがさらに進化。

軽いスニーカーとスーツで
ビジネスに驚きの快適さを。

クリエイティブディレクターを戸賀敬城、デザイン監修を橋本 淳が務める〈アウル〉。ジェットセッターが快適に過ごせるスタイルをベースにしており、この夏は暑さにも対応する軽くて涼しいセットアップスーツを提案。また大人気スニーカーの“デバイス1”もユーザーの声に応じて新色が登場。

写真＝野口貴司、正重智生 スタイリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝中嶋竜司 構成&文＝大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi, Tomoo Syoju (BOIL) styling : Kan Nakagawara (CaNN)
hair&make-up : Ryuji Nakashima (HAPP'S) composition&text : Keiko Oshima



color variation



多くあるカラーバリエーションの中で、ブラックも人気。“デバイス1”スニーカー各1万9800円(以上デバイス1 / アウル)

F.DOTTI JERSEY SETUP SUIT

〔エフドットティ ジャージー セットアップ スーツ〕

軽さと通気性のよさ。もちろん着心地も最上級のセットアップスーツ。

高機能素材を採用し、快適かつスタイリッシュさを追求したセットアップ。麻調の糸を使用しているのでドライタッチで清涼感も抜群。東レが開発した“Primeflex”なる糸を採用し、軽量かつほどよいストレッチが効いているから、シワになりにくく、イージーケアも実現。ジャケットは立体感のあるシャープなシルエットにこだわった絶妙なフィット感。パンツはテーパードシルエットのワンタックなのでビジネスはもちろん、オフスタイルも品よくまとまる。

color variation



カラーはチャコール、ベージュ、ブルーの3色。モデル着用はブルー。右:ベージュ、左:チャコール。ジャケット各3万6300円、パンツ各2万2000円(以上アウール)



通気性、吸水速乾性に優れた高機能素材は、透け感もあり、薄く軽い。さらにキックバック性にも優れているので型崩れしづらいのも特徴

SHOP LIST

阪急メンズ大阪 ☎06-6313-9889
阪急メンズ東京 ☎03-6252-5480
大丸東京 ☎03-6895-2381
ジェイアール名古屋タカシマヤ ☎052-566-3979
博多阪急 ☎092-419-5639
大丸札幌 ☎011-206-8525

世界で活躍するアクティブなジェットセッターのためのブランド〈アウール〉。機内でも快適に過ごせ、空港からそのまま仕事先に行けるパンツやスーツを、クリエイティブディレクター自身が探していて、結局自ら開発したというのが、ブランドのスタート。ストレッチ性に富んだ美しいシルエットのセットアップスーツは、またたく間に敏腕ビジネスマンの間で広がり、さらに多くのフォロワーを獲得している。クリーンなスーツ+スニーカーというスタイルを提案する〈アウール〉は、ユーザーの意見も真摯に採用してくれる。今回も「猛暑に耐えるスーツが欲しい」という声に応えてくれた。スニーカーも「ピュアな白が欲しい」という声から誕生したそう。ユーザーの声とともに進化し、常にビジネスマンの強い味方というわけだ。

Tシャツ9900円(アウール)、スニーカー1万9800円(デバイス1/アウール)、その他はスタイリスト私物

THE HOTEL WITH A LIVING HISTORY*

ノブルなカラートーンでまとめられた、5人掛けソファを置くエイブラハム リンカーン スイート

アメリカ大統領が演説原稿を書いた“知性”を感じるホテル。

大統領就任式における就任演説は、アメリカの新しいリーダーによる先の4年間の方向性を示す重要なメッセージ。米国国民のみならず、世界が注目する言葉が紡がれたホテルが、こちら。さてこの秋、誰がどんな就任演説を行うのか、気になるところだ。

text: Chieko Koseki 文=古関 千恵子

01/ リンカーンはここでアメリカの未来を描いた。

Willard InterContinental Washington, D.C.

【ウィラード インターコンチネンタル ワシントン D.C.】



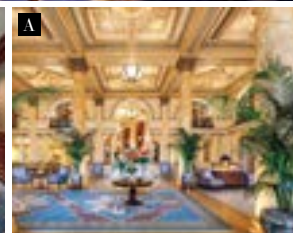
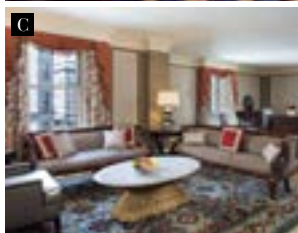
ホワイトハウスやナショナルモールからわずか1ブロック。ホテルとして歩みはじめた1818年以来、米国の歴史と深く関わってきたホテルがこちら。

エイブラハム・リンカーンは1861年、最初の就任式を前に10日間、このホテルに投宿。実はボルチモアでの暗殺計画を知り、予定を変更してこのホテルに突如現れたという。就任式までの間、イリノイで書いた就任演説の草案について、ここで推敲したと考えられている。また、「私には夢がある」の演説で知られるキング牧師も、このロビーで最終稿をまとめたそう。

客室数は335。クラシックルーム、プ

レミアムルーム、スイートからなる。69室あるスイートには、歴代米大統領や日本に開国を迫ったペリーの名前を冠する部屋も。エイブラハム リンカーン スイートは広さ132㎡。5人掛けソファや8人掛けの連邦スタイルのダイニングテーブルなどを置く。そして窓からは中庭が。この景色を見下ろしながらリンカーンは就任演説を練ったのだろうか、想像が膨らむというもの。

1847年創業から続く“ラウンド ロビン バー”は、“大統領の執務室バー”のニックネームを持つ。リンカーンの時代から政界・社交界の有力者が集う。様々な会話を耳にしてきたバーカウンターに、その内容を是非聞いてみたい。

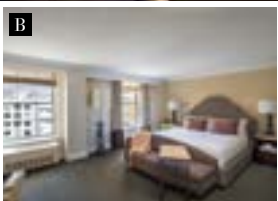


A: 壮麗なロビー。19世紀、ホワイトハウスでは禁煙を強いられたロビーで葉巻を楽しむ大統領に、人々が陳情してきたことから“ロビイスト”という言葉が生まれたとか B: テーブルが中央に置かれたラウンド ロビン バー。シグネチャーカクテルはミントジュレップ C: ジョン・アダムズ大統領の名がついたスイート

DATA

①1401 Pennsylvania Ave. NW,
Washington, D.C. USA
☎+1-800-8271747
<https://washington.intercontinental.com/>

温かいグレーを基調に、アメシストなどの宝石を思わせる色をアクセントにしたプレジデンシャル スイート



A: ホワイトハウスからクルマで3分。館内へ歩入ると華やかなロビー B: 客室はモダンで洗練された雰囲気。こちらはデラックス ラージキング C: 地元の食材を使い、伝統的なブラッスリーにモダンなひねりを効かせた“エドガー・バー&キッチン”。エドガーの弟分のクライド・トルソンにちなんだダイニングスペースもある

02/ あのルーズベルトの名言が生まれた歴史的な場所。 The Mayflower Hotel, Autograph Collection

【ザ メイフラワーホテル オートグラフ コレクション】

来年100周年を迎える歴史あるホテルは、“ワシントンの大貴婦人”の愛称で呼ばれる、客室数581の大型4つ星を持つ。1925年の第29代大統領クーリッジから第40代ロナルド・レーガンまで、各就任式の舞踏会はこちらのボールルームで開催されていた。

このホテルで就任演説の準備を行ったのは、フランクリン・ルーズベルト。1933年当時、経済不況の最中にあった米国、国民は不安にかられていた。そんな状況下、776号室にて後世まで語り継がれる1フレーズが生まれた。

「我々が恐れなければならないのはただひとつ、恐れそのものだ」。この言葉に国民はどれだけ鼓舞されたことか。

ホテル内にある“エドガー・バー&キッチン”は、初代FBI長官エドガー・フーバーが熱愛した場所。伝統的なブラ

ッセリーで、亡くなるまでの20年間、ほぼ毎日、同じメニューを食べ続けたとか。同じく常連だったハリー・トルーマンも“ワシントンで2番めに最高なアドレス（1番はホワイトハウス）”との言葉を残している。ちなみにホワイトハウスの改装中、トルーマンは90日間、このホテルに滞在した。

1983年には米国の文化遺産保護制度のひとつ、国家歴史登録財に。マリオット・インターナショナルの中でも個性的な独立系ホテルを集めたオートグラフ コレクションの一員。

DATA

①1127 Connecticut Ave. NW,
Washington, D.C. USA
☎+1-202-347-3000
<https://www.marriott.com/en-us/hotels/wasak-the-mayflower-hotel-autograph-collection/>

ACTIVE WELLNESS*

自分のカラダと向き合う時間が、仕事や人生の質を高める。

パーソナルトレーニングを通して自分と向き合う時間を持つことで、心とカラダをバランスよく整える。今回は、そんな理想のウェルネスライフを実践しているゲストを迎え、〈トータル・ワークアウト〉の代表・池澤 智と語り合ってもらった。

写真=穂刈麻衣 構成&文=遠藤 匠

photo : Mai Hokari(BOIL) composition&text : Takumi Endo



自ら気づき、整える力をつけることも大切です。

カラダと向き合う時間は自分を軌道修正する時間。

トータル・ワークアウト
代表
池澤 智

日本におけるパーソナルトレーナーの先駆けとなったケビン山崎にアメリカで師事し、その確実な結果と実績から多くの俳優やモデル、文化人のボディメイクを30年近く手掛けているカリスマパーソナルトレーナー。

フリーアナウンサー
田中大貴

フジテレビのアナウンサーを経て、2018年に独立。スポーツアンカーや番組MCとして活動する一方、経営者としてスポーツチームや団体、企業とのビジネスコーディネーションやコンサルティングにも積極的に取り組んでいる。

パーソナルトレーニングジムの先駆けである〈トータル・ワークアウト〉では、“アクティブ・ウェルネス”という考え方を提唱している。この考え方の軸になっているのが、ウェルネスを手に入れるために自分が本当に取り入れるべきものと、その取り入れ方を知ること。そのスキルを身につけるためにパーソナライズされたコンテンツを提供している。今回のゲストの田中大貴は、フリーアナウンサーとして活動する一方、スポーツビジネス分野のコンサルティング企業の経営者としても挑戦を続ける生活の中で、どんなところにウェルネスの価値を見出しているのだろう。

池澤 智(以下池澤) 〈トータル・ワークアウト〉では、生活の質やパフォーマンスを向上させるために、自分自身と向き合う時間を持つことの大切さをお伝えしています。田中さんはご自身の生活の中に〈トータル・ワークアウト〉で過ごす時間を取り入れたことで、どんな気づきを得られたのでしょうか。

田中大貴(以下田中) トレーニング自体は会社員時代もしていましたが、目的を持ってカラダと向き合うようになったのは、やはり独立して〈トータル・ワークアウト〉に通うようになってからです。カラダを鍛えることももちろん重要ですが、パーソナルトレーニングをしている時間は自分を“無”の状態にすること

ができる。そこで思考を一度リセットしてクリアにすることで、また新たなアイデアが生まれたり、必要なことと不必要なことを整理できたりするんです。トレーニングをすることでクリーンになって爽快感を得られるのですが、それは精神的な部分で得るものかもしれませんが。

池澤 〈トータル・ワークアウト〉の会員様には、やはり田中さんのように頭をクリーンにできることをトレーニングの目的にしている経営者の方が多数おられます。たとえばベンチプレスにしても限界の重量を上げようとする時間を持つことで、物理的にも心理的にも日常から距離を置くことができます。これを“サイコロジカル・ディタッチメント”ともいいますが、重要な仕事の責任を担う自分から離れ、誰でもない自分になれる時間を持つことは、心とカラダのバランスを整えるうえでも重要。それを田中さんも体感しているのだと思います。

田中 確かにそうですね。ここに来ないとないかが溜まっていく感覚があります。ビジネスという戦場で戦うために、バランスを整えに来ている感覚です。トレーニング後は〈トータル・ワークアウト〉内にあるボディケア専門の施設を利用するのですが、ここではカラダの左右のバランスや疲れている部分を見極めたうえでケアをしてもらえます。カラダの状態によ

って様々なアドバイスももらえるので、自分を“軌道修正”することもできています。

池澤 リカバリーの意味もありますが、トレーニングの前後に行うボディ・ケアも重要なコンテンツとして提供しています。プロの手によりストレッチや揉みほぐしをしっかりと行うことで、トレーニングの質を高める効果も期待できます。

田中 もうひとつ、食事の面で“軌道修正”するための“知的財産”をもらえることも非常に助かっています。仕事を立て込んだときや、飲み過ぎた次の日にはどんなケアをすればいいのかも〈トータル・ワークアウト〉に通うようになって学びました。仕事に限らず、僕の人生のクオリティを上げるために欠かせない場所になっているのは間違いないですね。

Check!



内側から整えるエイジングケアを。

肌に足りない成分を表面的に補うスキンケアではなく、男性肌特有のトラブルに根本的にアプローチし、“内側から整える”オールインワンジェル。サラブレッドプラセンタエキス原液などの主成分を黄金比で配合。60g。6820円(トータル・ワークアウト)

IWC PORTUGIESE CHRONOGRAPH.



Portugieser Chronograph, Ref. IW371617

IWCがもつ、航海で使う計器ウォッチのレガシーを湛えた、「ポルトギーゼ・クロノグラフ」。IWC自社製キャリバー69355を搭載し、高い性能、堅牢性、耐久性を備えた時計です。縦に並べられたサブダイヤルがさらに高い視認性を叶え、アイコンニックなデザインを湛えたクロノグラフを完成させています。

IWC. ENGINEERING BEYOND TIME.



DISCOVER
MORE.

IWC
SCHAFFHAUSEN